

ファインダーの向こうの古墳たち

世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」は古代の人々の思いをつないで、今もこの地に静かに佇んでいます。その歴史的・普遍的な価値は多くの人によって語り継がれ、人類共通の大切な文化遺産として守られてきました。そして、その価値を未来へつなぐためには、知識として学ぶだけではなく、実際に“感じる”ことが大切です。



応神天皇陵古墳外濠外堤にて

今回の展示では、写真家・保田紀元氏が撮影した写真を通し、古墳の新たな魅力を紹介します。保田氏のファインダーには、古墳そのものを撮るだけでなく、季節ごとに咲く草花、空と流れる雲、そこに集う子どもたちの姿が映し込まれ、見ているだけで心が温かくなるような情景があります。また、世界遺産登録に向けた取り組みの中でも人々の心を動かし、古墳の魅力を伝える力となりました。

どうぞこの機会に保田氏の写真を通して古墳がもつ歴史の重みと、今を生きるまちの風景の美しさを感じてください。

“我がまちの宝”が皆さまの目に新しい姿で映しますように。

令和7年10月
羽 曳 野 市